

安全データシート

水銀(II)オキシド

改訂日: 2024-05-09 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 水銀(II)オキシド
CB番号	: CB6384854
CAS	: 21908-53-2
EINECS番号	: 244-654-7
同義語	: 酸化第二水銀, 酸化水

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 研究開発用途にのみ使用。医薬品、家庭用品、その他の用途には使用しないでください。
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS分類

急性毒性, 経皮 (区分1), H310
水生環境有害性 短期 (急性) (区分1), H400
水生環境有害性 長期 (慢性) (区分1), H410
このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) (区分2), 全身毒性, H373
急性毒性, 経口 (区分2), H300
急性毒性, 吸入 (区分2), H330

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS06	GHS08	GHS09

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(全身毒性)の障害のおそれ。

H300 + H310 + H330 飲み込んだ場合や皮膚に接触した場合や吸入した場合は生命に危険。

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策

P260 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

応急措置

P301 + P310 + P330 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

P302 + P352 + P310 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(験)で洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

P304 + P340 + P310 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

保管

P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: Mercuric oxide red
化学特性(示性式、構造式等)	: HgO
分子量	: 216.59 g/mol
CAS番号	: 21908-53-2
EC番号	: 244-654-7
化審法官報公示番号	: 1-436
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ場合は水を飲ませる(多くても2杯)。ただちに医師の診察を受けること。1時間以内に治療を受けられないという例外的な状況のみ、

嘔吐させ(相手に完全に意識のある場合のみ)、活性炭(10%懸濁液に20~40g)を投与してできるだけ早く医師の診察を受ける。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

5.2 特有の危険有害性

水銀 / 水銀酸化物。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える(除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: いかなる場合も、ほこりを生じさせたり吸い込んだりしないようにすること。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと(セクション 7、10参照)慎重に行うこと。適切に廃棄すること。関連エリアを清掃のこと。ほこりが生じないようにすること。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 6.1B: 不燃性、急性毒性カテゴリー1および2 / 猛毒性危険物

保管条件

密閉のこ。乾燥。換気のよい場所で保管する。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが入り出できる場所に入れておく。光に敏感である。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

ACL: 0.025 mg/m³ - 作業環境評価基準、健康障害防止指

TWA: 0.025 mg/m³ - 米国。ACGIH限界閾値(TLV)

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体のプロテクト

保護衣

呼吸用保護具

ほこりが生じた際に必要。

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

物理状態	粉末
色	データなし
臭い	データなし
融点 / 凝固点	融点/ 範囲: 500 °C - dec.
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性 (固体、気体)	データなし
引火上限/下限または爆発限界	データなし
引火点	非該当
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
粘度	動粘度 (動粘性率): データなし 粘度(粘性率): データなし
水溶性	データなし
n-オクタノール / 水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度	データなし
比重	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
爆発特性	データなし

酸化特性 データなし

データなし

9.2 その他の安全情報

データなし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

情報なし

10.5 混触危険物質

爆発性の雷酸水銀を生成する。ホスフィンと混合すると、熱/ショックに敏感な爆発性の黄色沈殿物が生成する。硝酸水銀の溶液は、アセチレンと共に熱またはショックに敏感なアセチリドを生成する。この生成物は硫酸に接触すると爆発する。シアン化カリウムとの混合物は、密閉下で加熱すると爆発する。不飽和炭化水素または芳香族炭化水素と混合すると激しい発熱反応を起こす可能性がある。、還元剤
次リン酸、燃料、可燃物（木材、紙、油など）。硫黄と混合すると爆発する。アルコールと混合すると

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性

LD50 経口 - ラット - 18 mg/kg

備考: (RTECS)

急性毒性推定値: 吸入 - 4 h - 0.051 mg/l - 粉じん/ミスト

(専門家の判断)

吸入: 吸収

急性毒性推定値: 経皮 - 5 mg/kg

経口: 吸収

(専門家の判断)

皮膚腐食性 / 刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

データなし

呼吸器感受性又は皮膚感受性

遺伝的傾向を有する者に感作の可能性あり。

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

室内実験により、催奇形性が認められている。

動物試験により、過剰暴露が生殖機能の障害を引き起こす可能性がある。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

データなし

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。 - 腎臓

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

誤えん有害性

データなし

11.2 追加情報

RTECS: OW8750000

肝臓障害が起こることがある。、腎障害を起こすことがある。、吐き気、嘔吐、下痢、振戦、流涎症

水銀化合物には細胞毒性と原形質毒性がある。毒性の症状: 急性)目に触れると重度の病変を生じる。粉末の飲み込みや吸引は消化管と気管の粘膜を損なう(金属味、悪心嘔吐、腹痛、血の混じった下痢、腸の炎症、声門浮腫、誤嚥性肺炎)。血圧降下、心不整脈、循環虚脱、腎不全。慢性)歯の喪失を伴う口の炎症と水銀線。主な徴候は中枢神経系に現れる(言語、視覚、聴覚、感受性の障害、記憶力の喪失、刺激、幻覚とりわけせん妄)。

本品は特に慎重に取り扱うこと。

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

死亡率 LC50 - *Cyprinus carpio* (コイ) - 0.16 mg/l - 96 h

備考: 値は以下の物質と同様に得られる。塩化水銀

ミジンコ等の水生無脊椎動物

最大無影響濃度 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 0.001 mg/l - 21 d

椎動物に対する毒性

備考: 値は以下の物質と同様に得られる。塩化水銀

12.2 残留性・分解性

生分解性の判定方法は無機物質には適用されない。

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：1641 IMDG（海上規制）：1641 IATA-DGR（航空規制）：1641

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：MERCURY OXIDE

IMDG（海上規制）：MERCURY OXIDE

IATA-DGR（航空規制）：Mercury oxide

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 IATA-DGR（航空規制）：6.1

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

次リン酸、燃料、可燃物（木材、紙、油など）。硫黄と混合すると爆発する。アルコールと混合すると不飽和炭化水素または芳香族炭化水素と混合すると激しい発熱反応を起こす可能性がある。還元剤の生成物は硫酸に接触すると爆発する。シアン化カリウムとの混合物は、密閉下で加熱すると爆発する。生成する。硝酸水銀の溶液は、アセチレンと共に熱またはショックに敏感なアセチリドを生成する。こ爆発性の雷酸水銀を生成する。ホスフィンと混合すると、熱 / ショックに敏感な爆発性の黄色沈殿物が

15. 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法:

危険物に該当しない。

消防活動阻害物質 貯蔵等の届出を要する物質:

酸化水銀

毒物及び劇物取締法:

毒物 - 酸化水銀

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則:

第二类物質 - 酸化水銀

有機溶剤中毒予防規則:

非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物:

法第57条 (施行令第18条) - 酸化水銀

名称等を通知すべき危険物及び有害物:

法第57条の2 (施行令別表第9) - 酸化水銀

化学物質排出把握管理促進法:

第1種指定化学物質 - 水銀

化審法

監視化学物質

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

EC50: 有効濃度 50%

LC50: 致死濃度 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

LD50: 致死量 50%

IMDG: 国際海上危険物

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

IATA: 国際航空運送協会

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。